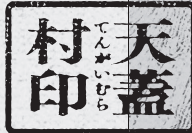


月影

朔

とある村の

奇妙な求人広告



Contents

第一部	ウェブ・ドキュメント「とある村に関する報告」	005
第二部	ポッドキャスト「深淵アーカイブ 映画『天蓋村』は現実を映したか？」	091
第三部	調査ルポルタージュ『Project ■■■』	133

あなたは応募資格をお持ちですか？

※登場する団体名・人名等は全て仮名としておりますので、ご了承ください。

第一部

ウェブ・ドキュメント
「とある村に関する報告」

ようこそ、『失われた日本の風景』へ。

このサイトは、管理人である私「名無しさん@地域史研究」が個人的に運営するデジタル・アーカイブです。

地図から姿を消した集落や忘れ去られた風習など、公式の歴史からこぼれ落ちる記録の収集をライフワークとしており、普段は郷愁を誘うコンテンツが中心です。

しかし、今回これから皆様にご覧いただく一連の記録は、ノスタルジーとは無縁の、むしろその対極に位置するものです。

私自身、これらを公開すべきか否か、逡巡し続けました。それでもなお公開を決意したのは、何より、この記録の持つ異様な引力から、私自身がもはや逃れることができない、という事実を認めざるを得なくなったからです。

事の始まりは、私の日課である過去のウェブアーカイブの閲覧中、数年前の地方求人情報サイトのキャッシュを眺めていた時のことでした。

無数に表示される求人情報の中にそれはありました。

一つの「奇妙な募集要項」です。

職務内容と応募条件との間に、論理的な繋がりが全く見出せない、常軌を逸した一文。はじめは誤植か、あるいは担当者の悪ふざけだろうと見過ごそうとしました。

しかし、一度意識してしまったその「違和感」は、伝染病のように私の思考を蝕んでいったのです。

あの求人は本当に単なる間違いだったのだろうか。似たような事例は、過去になかったのだろうか。そうした疑問に取り憑かれた私は、膨大なウェブアーカイブの深層へ調査の範囲を広げていきました。

結果は、私の想像を絶するものでした。同様の、いや、それ以上に不可解な条件を提示する求人広告が異なる時代、異なる媒体から次々と発見されたのです。

これから皆様にご覧いただくのは、数十年にわたる、ある異常な活動の記録です。

ここに提示されるのは、あくまで公に存在した記録の集積であり、それ以上でも以下でもありません。

そこからのような結論を導き出すかは、皆様ご自身の判断に委ねられています。前置きが長くなりました。

それでは、私をこの沼へと引きずり込んだ最初の物証から、ご覧いただこうと思います。

【資料No.001】

【資料種別】 Web求人サイト「Work-Navi」のスクリーンショット

【取得日】 2019年10月（掲載終了後のキャッシュと推定）



ホーム

ログイン



Web求人サイト

Work-Navi

新着求人募集 | 勤務地 | 給与から探す | 条件を入力する | ...

株式会社サイレント・グリッド



お気に入り

【募集要項】

職種 データ入力・監視オペレーター（契約社員）
給与月給 38万円～ ※深夜手当等含む
勤務地 ○○県△△郡山間部データセンター
※詳細非公開、寮・駐車場完備
仕事内容 データセンター内でのサーバ監視、
および特定データの入力・照合作業

【応募資格】

- ・学歴不問、未経験者歓迎
- ・基本的なPCキーボード操作ができる方
- ・シフト勤務に対応できる方
- ・3時間以上、瞬きをせずに画面を注視できる方

[この求人掲載は終了しました]

Web求人サイト

Work-Navi

この求人情報は、2010年代の地方雇用に関する調査の過程で偶然発見したものだ。掲載サイトの「Work-Nav」はすでに存在しない。

本資料において特筆すべき異常性は、以下の二点に集約される。

第一に、過疎化が進行する△△郡において、未経験者向けのデータ入力業務に対し月給38万円以上という待遇を提示している点。これは当時の地方経済の実態から著しく乖離している。

第二に、そもそも△△郡のインフラ環境で「最新鋭のデータセンター」が稼働している不自然さだ。

当時の地方紙のアーカイブによれば、この山間部データセンターは熱暴走を防ぐため、この地域から採掘される特殊な『高純度ケイ素（シリカ）』を含有した建材を使用しているという。だが、建築許可や施工業者の記録はなぜか黒塗りになっていた。

そして、決定的な異様さは「応募資格」の末尾にあった。

3 時間以上、瞬きをせずに画面を注視できる方

担当者による誤植の可能性も否定できないが、何らかの特殊な業務内容を示唆する暗号的表現である蓋然性も考慮すべきであろう。

私はこのスクリーンショットを「不条理な求人広告のサンプル」として保存した。

〇〇県××町

公式サイト



検索



メニュー

ホーム > 職員募集

平成30年度××町立図書館 臨時職員 (蔵書デジタル化アシスタント) 募集のお知らせ

業務内容 町立図書館収蔵の郷土史資料、

古文書等を専用スキャナでデジタルデータ化する作業です。

勤務場所 ××町立図書館二階郷土資料室 (〇〇県××町大字山田58 - 1)

賃金時給 1、250円

【応募資格】

- ・ 年齢、学歴不問、PCの基本操作ができる方
- ・ 地域の歴史や文化に関心のある方歓迎
- ・ ご自身の顔が左右対称に近いと思われる方

応募用紙 (PDF: 209KB)

©2018TownofXX,AllRightsReserved.

「瞬きをしない」という応募資格が、歴史上ただ一度の「エラー」なのかを検証するため、私は過去のデジタルアーカイブの検索を開始した。

企業のPR目的のユーモアや単なる誤植をふるい落とし、あの求人広告だけが持つ、冗談とは似て非なる冷たい質感の記録を探し続けた。

そして発見したのが、この町役場の臨時職員募集である。

前回のIT企業とは無関係な行政機関であり、業務内容も地方図書館での古文書整理と関連性は見出せない。

だが、「応募資格」の末尾に、私は探し求めていた種類の異物を見つけた。

ご自身の顔が左右対称に近いと思われる方

蔵書のデジタル化という、人前に出ることのない作業に担当者の顔の造形は影響しない。顔認証システムのテストといった合理的な解釈も考えたが、一介の臨時職員に任される業務としては不自然だ。

特に不気味なのは、「近いと思われる方」という応募者の主観に委ねた表現である。

客観的な事実よりも、本人がそう認識しているかどうかが重要だとも言うような、その奇妙な配慮が異様さを際立たせていた。

この時、私は二つの求人広告の間に、無視できない**共通項**があることに気づいた。

前回の勤務地「△△郡」と今回の「××町」は地図上で隣接する過疎地域であること。

時給1250円は、当時の地方臨時職員として好条件と言えること。

ありふれた業務内容と比較的良好な待遇を提示し、最後の一文で、業務と全く無関係な身体的特徴を問う。

偶然にしては、あまりに符合しすぎている。

まるで同じ設計思想で作られた罠のようだ。

資料No.001は孤立した「点」ではない。ウェブという広大な平面に、関連を疑わせるもう一つの「点」が現れた。

私の調査は、この時から珍奇な記録の収集ではなくなった。

これらの一見無関係な求人広告群の裏に隠された、共通の意図を突き止めること。

それが新たな目的となった。

【資料No.003】

【資料種別】 シルバー人材センター広報誌のアーカイブ (PDF)

【発行年】 2015年

公益社団法人◇◇地区シルバー人材センター連合会広報誌

かがやき

第八七号

【お仕事情報コーナー】

町立あさひが丘中央公園清掃スタッフ

内容

公園内の清掃、除草、ゴミの収集など、
軽微な作業です。

報酬 時給950円

【応募資格】

- ・年齢不問、健康で体を動かすのが好きな方
- ・真面目に業務に取り組んでいただける方
- ・絶対音感をお持ちの方に限る

応募・お問い合わせは、お住まいの地域のシルバー人材センターまで

これまでの発見が偶然ではないという仮説を検証するため、私は調査の網をインターネットから物理的な紙媒体へ広げた。

もしこの異常な求人が長年にわたり存在していたなら、その痕跡は図書館の書庫に眠る古い紙の上にも残されているはずだ。

数週間にわたる地道な調査の末、シルバー人材センターの広報誌アーカイブの中に、私は第三の「点」を発見した。

業務内容はごく普通の公園清掃。

報酬も2015年当時では妥当な水準だ。

しかし、応募資格の末尾の一文が、それまでの全ての文脈を破壊していた。

絶対音感をお持ちの方に限る

「瞬きをしない」「顔が左右対称」に続く、第三の異常な条件。

公園清掃に絶対音感が求められる合理的な理由は、いくら思考を巡らせても見出すことができない。

この資料は、私の仮説を補強すると同時に、二つの新たな疑問を提示した。

第一に、募集主体の多様性である。

民間IT企業、行政機関、そして今回は公益社団法人。

これら三者に直接的な繋がりはない。

つまり、背後にいるのは単一の組織ではなく、複数の無関係な組織を横断的に利用する、巨大で実態の見えない「システム」の存在が考えられる。

第二に、求められる資質の変化だ。

これまでの身体的・外見的特徴に対し、「絶対音感」は特殊な知覚能力である。

これは、彼らが単一の目的のためではなく、社会のあらゆる階層からそれぞれに専門化された「部品」を執拗に集めているという可能性を示唆していた。

平凡な労働の裏で、人知れず**選別**が行われているとしたら？

私はこれまで集めた三つの資料を机上に並べた。

2019年のIT企業、2018年の町役場、2015年のシルバー人材センター。

時期も主体も資質もバラバラだが、勤務地の記述「〇〇県△△郡山間部」「〇〇県××町」

「◇◇地区」は、同じ県の同じ山塊を指し示しているように思えた。

確信が、疑念を塗りつぶしていく。

これらの求人は、全て同じ場所を指しているのではないか。

私は国土地理院の旧版地形図を取り出した。

もし全ての点が寸分の狂いもなく一つの場所を指し示せば、それはもはや仮説ではない。

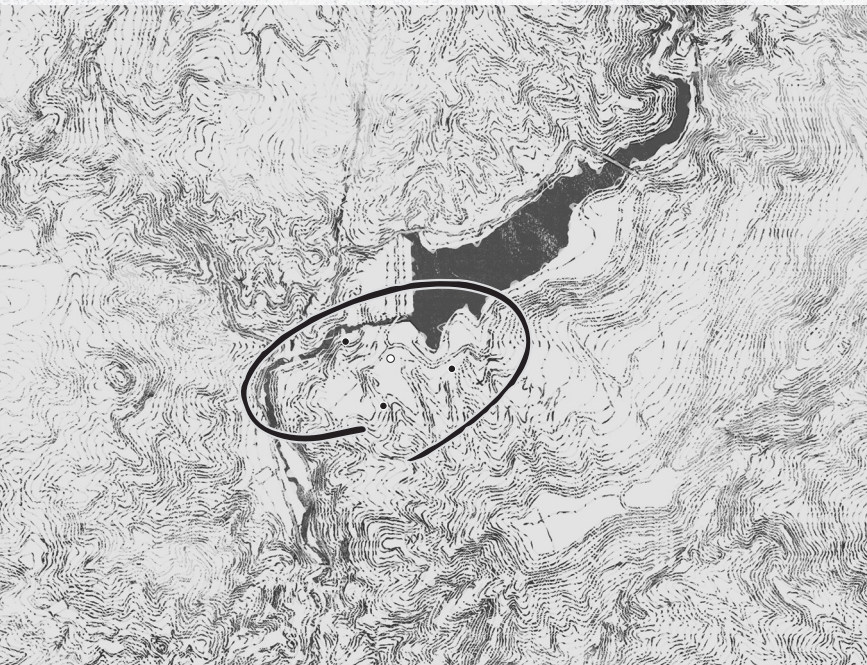
動かぬ事実として、この異常事態の震源地が姿を現すだろう。

【資料No.004】

【資料種別】 手書きノートのスキャン画像

【作成年】 2020年3月12日

異常求人広告3件の勤務地情報が、
単一の座標を指し示す可能性の検証。



【検証プロセス】

最も情報が具体的な資料No.002「〇〇県XX町大字山田58-1町立図書館」を基準点とする。

各種地図で実在を確認。

資料No.003「◇◇地区町立あさひが丘中央公園」を旧住宅地図で特定。

基準点から北東へ約3.5km。

最も曖昧な資料No.001「〇〇県△△郡山間部データセンター」の位置を、

仮説(A勤務地は近接、B名称は偽装)に基づき絞り込み。

旧地形図にて、基準点と公園から数kmの地点に、不自然な造成地を発見。

3件の勤務地は、誤差数kmの範囲内に極めて近接して存在。偶然とは考えがたい。この異常事態の「震源地」は、北緯■度■分■秒、東経■度■分■秒と算出される。

(ここからインクの色が変わり、筆跡が激しく乱れている)

昭和45年の地形図。最新の衛星写真。

私が特定した中心点。三つの異常な求人が引き寄せていた場所。

そこには、一つの集落の名が記されていた。

旧・天蓋村

てんがしのむら

血の気が引く。天蓋村は……

震える手でニュースアークライブを検索する。見出しが目に飛び込んできた。

「天蓋ダム、本日より湛水開始。80年の歴史に幕」

記事の日付は、2020年2月。数週間前だ。

私が発見した震源地は、今この瞬間も、何十メートルも下の水の底に沈んでいる。

2019年のデータセンター、2018年の図書館の求人。

それらは全て、村がダムに消える直前まで募集が続けられていたことになる。

水没する村の周辺で、一体何のために？

これまで集めた点と点が、「天蓋村」というキーワードを得て、一気におぞましい線として繋がりはじめた。

私は、ダムの底に封印された、決して暴かれてはならなかった秘密の入口に立ってしまったのだ。これから、この水没した村の過去を徹底的に掘り返さなければならぬ。

(メモの最後は、インクが滲み、判読不能になっている)

【資料No.005】

【資料種別】 アルバイト情報誌のアーカイブのスクリーン画像

【発行年】 1992年

週刊チャンス!

Weekly Chance

1992年5月18日号

〇〇県北エリアの シゴトを探すならココ!

職種 スーパーマーケット品出し・商品陳列スタッフ

店名 フレッシュマートてんがい

場所 旧天蓋村 (※)

給与 時給 **1000** 円 (交通費全額支給)

資格 年齢・経験不問。

コツコツ作業が好きな方。

人よりも長く息を止められる方、歓迎いたします

応募 まずはお気軽に下記までお電話ください!

電話 ■■■■-■■■■-■■■■■

※勤務地は天蓋ダム建設予定地に含まれますが、営業は継続しております。

「天蓋村」——この水没した地名を特定したことで、私の調査は新たな段階に入った。

これまでの闇雲なキーワード検索ではなく、「天蓋村」を軸に過去のあらゆる記録を再調査する。

調査対象をインターネット以前の使い捨てられがちな情報媒体——地方のアルバイト情報誌へ切り替え、1992年5月の1冊に私は探し求めていたものを発見した。

人よりも長く息を止められる方、歓迎いたします

第四の異常な条件。これまでの受動的な身体特徴とは異なり、これは訓練によって獲得される「能力」だ。

この一文は何らかの目的のための「選別」の基準と考えられる。長く息を止められる能力が求められる状況とは、水中での活動か、あるいは空気の薄い場所での作業か。

さらに重要なのは、この広告が掲載された「時代」である。

1992年は、天蓋ダム建設が本格化し、住民の移転が始まっていた時期だ。広告の「※勤務地は天蓋ダム建設予定地に含まれますが、営業は継続しております」という注釈が、

その事実を生々しく裏付ける。

水没の運命が確定し、村が死に向かう真っ只中で、このスーパ―は不可解な条件で人を募集し続けていたのだ。

まるで、沈みゆく船の上で、船員とは無関係な特殊技能者を探しているかのようだ。

この発見は、天蓋村の「選別」が媒体や職種を変えながら執拗に続けられてきたことを証明した。

私の手元には「瞬き」「対称性」「絶対音感」「無呼吸」というピースが揃いつつあった。この村が外部から人間を集め続けた根源を突き止めるため、調査はさらに過去へ遡っていく。

1988年11月号

月刊 GET A JOB!

カタい仕事でガッツリ稼ぐ！ 官公庁・オフィスワーク特集

職種 天蓋村役場臨時職員（書類ファイリング係）

場所 ○○県天蓋村役場内

給与 日給9000円（交通費別途支給、残業ナシ！）

資格 経験・年齢・性別一切不問！

真面目に作業に取り組める方

高所が平気な方、および閉所に対して不安を感じない方

応募 まずはお気軽に下記までお電話ください。

履歴書は不要です。

電話 ■■■■-■■■■-■■■■

天蓋村役場臨時職員課担当 フクシマ

調査は、バブル崩壊後の不況が深刻化しつつあった1998年へ遡る。

当時の求人情報誌は、安定を求める切実な言葉と、過酷な労働環境を隠すような虚飾で満ちていた。その中で発見した「天蓋村役場」の募集。ここで一つの不可解な事実に気づく。

1992年のスーパリーの求人（資料No.005）ではすでに「旧天蓋村」と表記されており、ダム建設により地域社会としては過去のものとして扱われ始めていたはずだ。

それにもかかわらず、その6年後である1998年に「天蓋村役場」名義で堂々と求人が出されている。すでに住民の移転が進み、行政機能が消滅に向かっていたはずの村で、なぜこのような募集が続けられたのか。

これは、この求人が通常の行政活動ではなく、役場の名を借りて稼働し続ける「別の異常なシステム」であることを強く裏付けている。

その資格の欄には第五の異常な条件。

高所が平気な方、および閉所に対して不安を感じない方

これまでの条件が身体的特徴や知覚能力を問うものであったのに対し、これは応募者の精神性、恐怖に対する「耐性」を問うている。

役場のオフィス作業に、なぜ高所と閉所の耐性が同時に求められるのか。

この一文は、作業環境への適性を超え、ある種の極限状態に耐えうる特殊なメンタリティを選別していると思えない。

安定を求める人々の切実な思いの裏で、山深い天蓋村では、世間の苦境とは隔絶された論理に基づいた「選別」が淡々と進められていた。

この「精神的資質」という新たなピースの出現は、天蓋村が求めていた人材が、単なる肉体的なスペックだけでなく、より複雑で心理的な負荷を伴う「役目」を担う者であったことを示唆していた。

1973年8月6日号

週刊シゴト

【〇〇県北エリア】

豊かな自然の中で働こう! 観光・レジャーのお仕事

職種 山荘「てんかい」厨房係(皿洗い・清掃)

場所 〇〇県天蓋村国設天蓋山ロッジ内

給与 日給5000円(住み込み、3食付き)

応募資格 年齢・学歴不問。心身ともに健康な方。

走幅跳を5m以上跳べる方。

特記事項 立位体前屈が15cm以上の方(体が硬い方、大歓迎)

1ヶ月以内に5kg以上体重が増えたことがある方、優遇します

応募 下記住所まで、履歴書を郵送してください。

住所 〇〇県天蓋村大字天蓋六番地(村役場内)

書類選考後、通過者のみに面接日時を電報でお知らせします。

天蓋観光開発公社採用係

【名無しさん@地域史研究による解説】

調査の針を、高度経済成長期の終焉とオイルショックに揺れる1973年に巻き戻す。マイクロフィルムの薄暗い光の中で、私はその求人広告を発見した。

走幅跳を5m以上跳べる方。

特記事項 立位体前屈がマイナス5cm以上の方(体が硬い方、大歓迎)

一ヶ月以内に5kg以上体重が増えたことがある方、優遇します

第六、第七、第八の異常な条件。

皿洗いに跳躍力や極端な体の硬さ、急激な体重変動経験が求められる理由は、この世界のどんな理屈でも説明できない。

これまでの条件には、まだどこか婉曲的な側面があったが、この広告にはない。必要な身体スペックを、カタログから選ぶように無遠慮に羅列している。

求人広告という体裁を借りた、白昼堂々の「身体測定」である。

この暴力的で具体的な要求を前に、天蓋村のシステムは人間の尊厳を消耗品として扱う、冷徹でおぞましい何かだと悟った。

【資料No.008】

[資料種別] 村内限定広報誌の複写

[発行年] 1970年

広報てんがい

昭和四五年四月一日号

〔役場からのお知らせ〕

臨時職員募集

業務内容 広報誌「広報てんがい」および、その他行政文書の校正作業（誤字・脱字の確認）
給与 日当四千円（交通費込み）

応募資格 年齢不問、向学心のある方

授けに自信がある方（女性限定）

五メートルを六秒台で走れる方

応募方法 役場総務課のヤマガチまで、直接お申し出ください。

簡単な面接と実技試験を行います。

調査は、大阪万国博覧会に日本中が沸いた1970年へ遡る。村内でのみ配布されていたガリ版刷りの広報誌に、私は次なる異物を見つけ出した。

**投てきに自信がある方（女性限定）
五メートルを六秒台で走れる方**

第九、第十の異常な条件。

もはや常軌を逸しているという言葉すら生ぬるい。

1973年の求人が「身体測定」であったなら、これはトップアスリーの「選考会」だ。

さらに不可解なのは、これまでの求人にはなかった「女性限定」という指定だ。

これは、天蓋村で行われていた「何か」に、性別で定められた明確な「役割」が存在したことを示唆している。

走り手と投げ手。

私の脳裏に、古代の儀式に登場する役割の名が浮かんだ。

この求人が探しているのは労働者ではない。神事のために最適化された「器」そのものではないのか。

彼らは一体いつから、このような形で「部品」を集め始めたのか。

【資料No. 009】

資料種別 ラジオCM放送用音源 オープンリールテープからのデジタル化
放送年 1967年（昭和42年）

地元ラジオ局のアーカイブ倉庫から発見された、放送用の6mmテープに記録されていたCM音声の書き起こし。テープの劣化によるノイズ、音の揺らぎが確認される。

〔00::00-00::03〕

（効果音…軽快な木琴のジングル）

〔00::03-00::15〕

ナレーター さあ、今日も一日頑張るあなたに、天蓋紡績から素敵なお仕事のお知らせです！ 緑豊かな天蓋村で、私たちと一緒に働いてみませんか？ 最新式のミシンで、未来を織り上げましょう！

〔00::15-00::25〕

ナレーター 募集しているのは、紡績工場でのミシン作業員。経験は問いません！元気で、声大きい方！そして、方向感覚に自信のある方、お待ちしています！

〔00::25-00::28〕

ナレーター お問い合わせは、天蓋村役場、天蓋紡績採用係まで！

〔00::28-00::30〕

（効果音…木琴のジングル、フェードアウト）

調査は、地方の情報伝達をラジオが担っていた1967年へ遡る。県立図書館に寄贈されたローカルラジオ局のアーカイブから、天蓋紡績のミシン作業員の求人CMを発見した。

明るく、張りのある女性の声で、工場での屋内作業への希望を煽る。その何の変哲もないCMの後半に、第十一、第十二の異常な条件が挿入されていた。

元気で、声大きい方！

そして、方向感覚に自信のある方、お待ちしています！

ミシンの操作に声の大きさは関係なく、毎日同じ場所で作業を行う工場において、方向感覚は完全に無用の長物である。

むしろその二つの資質は、霧深い山中で互いの位置を知らせ合い、道なき道を進む^{せつ}斥候^{せうこう}や案内人にこそ求められるものだ。

「走り手」「投げ手」に続き、今度は「声大きい者」「方向感覚に優れた者」という、新

たな役割のピース。

一つ一つのピースが、ある種の神話的な役目を担う人間を選び出すためのものであるという、私の仮説にさらなる確信をもたらした。

【資料No.010】

【資料種別】 行政公報 マイクロフィルム

【発行年】 1960年(昭和35年)

図書館のマイクロフィルム閲覧機で表示された、○○県報の紙面からテキスト情報を再構成したもの。
旧字体が混じり、縦書きの文字列は右から左へと読む形式である

○○県報第千二百号

昭和三十五年七月五日(火曜日)発行所○○県庁

公達公通 天蓋村電話交換手募集要綱

天蓋村役場ニ於イテ、村内電話網ノ拡充ニ伴イ、左記ノ要領ニテ電話交換手ヲ募集ス

一、職務内容 天蓋村役場内電話交換室ニ於ケル電話回線ノ接続業務

一、勤務地 天蓋村役場

一、採用予定人員 一名

一、応募資格

年齢十八歳以上、三十歳未満ノ女子ニシテ、学問ノ心得アル者

シンセツ丁寧ニシテ、明朗快活ナル者

長距離ヲ歩ケル者

足ニ豆ノ出来ニクイ者

一、待遇 月給 壹萬貳千円。住居斡旋ノ相談ニ応ズ。

一、応募方法 七月二十日迄ニ、履歴書ヲ添ヘテ天蓋村役場総務課マデ持参ノコト。

追ッテ面接日ヲ通知ス。

昭和三十五年七月五日

天蓋村長 ●●●●

調査は、高度経済成長期の1960年（昭和35年）へ遡る。

古い行政公報の中から、天蓋村の電話交換手の募集広告を発見した。

一日中、交換台の前に座って作業する電話交換手は、当時の女性にとつて憧れの職業の一つだったようだ。

しかし、そのイメージは、「応募資格」に記された一文によつて粉碎される。

長距離ヲ歩ケル者

足ニ豆ノ出来ニクイ者

第十三、第十四の異常な条件。業務内容との完全な「矛盾」である。一日中座って作業する者に、なぜ長距離歩行能力と、それに耐えうる肉体的な強靱さが問われるのか。

この求人広告が孕む悪質さは、その偽装にある。

安定した職を求める若い女性を電話交換手という魅力的な餌で釣り上げ、その実、全く異なる過酷な「役目」に従事させるための、非人道的な罠だ。

「走り手」「投げ手」に続き、新たに「ひたすら歩き続ける者」という役割が加わった。

この村の目的が、単一の儀式などではなく、もつと巨大で継続性を伴った事業のようなものである可能性が、私の頭をよぎった。

郷土史家が個人所蔵していた、戦時中の天蓋村の回覧板を複写させてもらったものからテキストを再構成。
和紙に謄写版で刷られており、文字のぼれや用紙の染みが激しい。

天蓋村回覧

昭和拾八年拾壹月参日

銃後奉公ノ御願ヒ

村民各位ニ於カレマシテハ、日夜ヲ分カタズ大東亜聖戦ノ完遂ニ向ケ、増産ニ勵マレテキルコトト拜察仕リマス。
サテ、当村ニ於イテモ、国防力増強ニササヤカナガラ貢獻スベク、新タニ国策遂行ノ爲ノ重要施設ヲ設置スル運ビトナリマシタ
付キマシテハ、左記ノ通り施設管理ノ爲ノ人員ヲ募集致シマス。是レ、銃後ヲ守ル我々国民ノ務メナリ。奮ツテ御応募下サイ。

一、業務内容 村有温室ニ於ケル農作物ノ管理、育成

一、勤務地 天蓋村西地区造成地内

一、募集人員 式名

一、応募資格 年齢・性別ヲ問ワズ

愛国心ニ燃エ、体力ニ自信アル者

夜目ガ利ク者、歓迎

寒サニ強キ者、優遇

一、待遇 食料ノ現物支給アリ。

詳細ハ村長マデ問イ合ワセノコト

欲シガリマセン勝ツマデハ！

天蓋村

【名無しさん@地域史研究による解説】

私の調査は、記録そのものが散逸し始める戦時下、1943年（昭和18年）へ足を踏み入れる。旧住民の子孫が所蔵していた戦時中の回覧板の中から次なる記録を発見した。

夜目が利ク者、歓迎。

寒サニ強キ者、優遇。

温室とは、常に暖かく光に満ちているはずだ。そこでなぜ夜目が利くことが求められ、寒さに強いことが優遇されるのか。

これは、勤務地が温室とは名ばかりの、光の届かない極寒の場所であると示唆している。1960年の求人が職種の偽装だとすれば、これは勤務環境そのものの偽装である。

暗闇と寒さを求める労働環境と、国策遂行という大義名分。

この村の狂気が、単なる土地の因習ではなく、国家レベルの闇と繋がっている可能性を示唆していた。これは戦争によって始まったのか、それとも戦争すらも利用したのか。

その答えを求め、私はこの国の歴史が最も深い闇に包まれていた時代の記録へ手を伸ばした。

思考が一瞬、停止する。
あまりにも単純で、あまりにも業務内容と無関係。そのあつげらんとした矛盾は、もはや論理的な考察を拒絶する、純粋な狂気の発露のように思えた。

泳ギノ得意ナル者、ゲンキナ者

その、ありふれた募集要項の末尾に、第十七の異常な条件が、まるで最初からそこにいるのが当然であるかのように、無造作に記されていた。

測量図面や申請書類を清書するという、完全に屋内で完結する事務作業だ。求められるのは、文字の丁寧さや、長時間のデスクワークに耐える根気であろう。

天蓋村役場での書類筆耕手の募集。

1940年（昭和15年）に到達した。
国会図書館の膨大なマイクロフィルムの中から、黄ばんだ地方新聞の片隅に、私はこれまでの調査における最古の記録を発見した。

【名無しさん@地域史研究による解説】

応募方法 履歴書ヲ持参ノ上、天蓋村役場助役マデ申シ出ルコト
堅忍持久困ノ為！

心身共ニ健常ニシテ、筆マメナル者
泳ギノ得意ナル者、ゲンキナ者

待遇 月給参拾円。食費補助アリ。

募集人員 若干名

勤務地 天蓋村役場

業務内容 役場内ニテ、測量図面及ビ各種申請書類ノ筆耕（清書）、整理。

来ルベキ時代ニ備ヘ、天蓋村役場デハ、国土計画ノ礎トナル重要書類ノ整理ノ為、左記ノ要領ニテ筆耕手ヲ募集スル。
青年諸君ノ奮起ヲ期待ス。

天蓋村役場吏員（筆耕手）募集

【郷土ノ発展ニ尽クセ！】

〇〇縣報知新聞

昭和拾五年
四月九日（火）